

浄泉寺報

第15号
2018年
報恩講



昨年はうちんこうおんたいやの報恩講大速夜「音楽法要」の様子

彌陀みだの誓願せいがん不思議ふしぎにたすけられ
まいらせて、往生おうじやうをばとぐるな
りと信じて念仏ねんぶつもうさんとおも
いたつこころのおおるとき、す
なわち攝取不捨せつしゆふしやの利益りやくにあずけ
しめたまうなり。

『歎異抄』
たんいしやう

浄泉寺住職 望月廣三

「彌陀みだの誓願せいがん不思議ふしぎにたすけら

れまいらせて」と言われている

「彌陀」、つまり阿弥陀さまとは

何か。このことが主要なテーマで

すね。前号では息子夫婦と孫の四

人が土砂崩れの下敷きになり亡

くなられて、わたしに問われた、

「この世には神も仏もないの

か」と。

絶望のどん底に突き落とされ

た人の問いは、まさにこれだ、と

思いました。そこでわたしはお婆

さんに次のようなことを話した

のです。

あなたのこの悲痛なおもいは、

わたしには十分に理解できます。

しかし：、です。しかし、仏さ

まや神さまは自然災害や不慮の

災難などを救えるものでしょう

か？仏さまといえども、神さまと

いえども、それは不可能ではあり

ませんか？もし可能だとすれば

この世の中に人間の不幸は存在

しないということになるでしょ

う。しかし現実には世界中に、自然

災害や不慮の災難が充ち満ちて

いるではありませんか。

つまり災害は仏や神の問題で

はなく、人災であり天災である、

と。神仏のせいにすることはでき

ないのだと言いました。人災は人

間の責任であり、天災は人間の

“はからい”を超えています、と。

お婆さんの息子一家の不幸は

天災なのか、人災なのか、わたし

にはわかりませんが、いずれにし

ても神仏は、それを事前に予知し

たり、防いだりすることなどでき

ないのです。そのことをまず、知

らねばならないでしょう。

では、息子一家の不慮の災害を

どう捉えたらよいか、仏教ではど

う捉えているのか、それを明らか

にしなければなりません。

仏教は「縁起えんぎの法」を説いたと

言われています。この教えから息

子さんの不慮の災害を捉えると、

どうなるか、です。まず考えられ

ることは、土砂崩れになった場所

です。そこは新たに開発された造

成地だったということ。地盤に問

題があったのでしよう。あるいは

堅固な地盤だったにもかかわらず

ず、それを上回る大量の雨が原因

だったということですね。さらに

この場所にマイホームを建てね

ばならなかった原因もあります

ね。その他にもいろいろな原因が

あると思いますが、要するにそれ

らは自発的なものもそうでない

ものも含めて、すべて因縁いんねんなのだ

ということですね。定められた運命

ではないでしょうか。

どうしてこんな酷い目に遭ったのか、どうして自分だけこんな辛い目に遭わねばならないのか、この世には仏も神もないのか、といくら考えても、いくら愚痴つてもどうにもならないのです。むしろ事態はますます悪くなって行くばかりです。この精神状態を仏教は「迷い」と教えています。真の救いは、このイライラやクヨクヨから解放されることなのです。ではどうしたら解放されるか、次の号で明らかにしましょう。

(つづく)



「正信偈」のお勤めが収録された「正宗大谷派勤行集」

お内仏(仏壇)に座る ⑬ ～「正信偈」ってなんなん?～

「帰命無量寿如来～」で始まる「正信偈」は、浄土真宗ではお経よりもよく読まれています。「あれ? 正信偈ってお経じゃないん?」という声も聞こえてきそうですね。お経とは、お釈迦様が説かれた教えを後に弟子が「私はこう聞いた」と綴ったものです。ご法事で勤まる「仏説阿彌陀經」等がそれです。一方「正信偈」は、南無阿彌陀仏の教えに出遇われた親鸞聖人が、その出遇いの感動を「偈」にしたものです。「教行信証」という親鸞聖人の主著の中に記されています。言葉を超えた世界に出遇った感動は、その教えを伝えてくださった七人の僧侶への感謝の念を伴って「うた(偈)」という形で私たちに届けられています。11月28日は親鸞さんの御命日。それにちなんで報恩講が浄泉寺でも勤まり、「正信偈」を皆さんで唱和します。事実は事実のままに引き受けてイキイキと生きていく道を教えてくださる仏法に、報恩講をご縁にお会いいたしたいと思います。(浄泉寺若院・釋亜世)

平成31年(2019年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	平成30年(2018年)亡
三回忌	平成29年(2017年)亡
七回忌	平成25年(2013年)亡
十三回忌	平成19年(2007年)亡
十七回忌	平成15年(2003年)亡
二十五回忌	平成7年(1995年)亡
三十三回忌	昭和62年(1987年)亡
五十回忌	昭和45年(1970年)亡

浄泉寺からのお知らせ

● 春のお彼岸 ●

お参りの日程は、三月上旬にお葉書でお知らせします。浄泉寺本堂での彼岸会にもぜひお参りください。

● 同朋会 ●

浄泉寺では、毎月同朋会を開催しています。住職による法話の後、皆さんでお茶を飲みながら語り合います。どなたでもお気軽にご参加いただけます。新年の一月は、修正会とみなさんとの新年会を兼ねて開催します。今後の日程等の問合せは浄泉寺まで。

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>